いわた
文化財だより 第228号
磐田市教育委員会教育部文化財課　令和６年３月１日発行

目　次

■ただいま整理作業中！甑塚古墳④　・・・　P1～2
■文化財課ニュース　・・・・・・・・・・・・・・・P3
■参加者募集　歴史見学会「城之崎城」　・・・　P4
■『山車のはなし』鈴木崇夫　・・・・・・・・・　P4

ただいま整理作業中！甑塚古墳④

今回の特集は、文化財だより第184号、200号、214号から続く甑塚古墳（岩井）の整理作業紹介の第４弾です。質・量ともに全国的に見ても重要な甑塚古墳の報告書の完成・公表を目的とし、令和元年度から継続して整理作業をおこなっています。その作業の一部を紹介します。

第184号　第200号　第214号

甑塚古墳とは

甑塚古墳の石室と石棺（昭和34年）

①６世紀初め頃、県内で最も早く横穴式石室（※1）が設けられた直径約26mの円墳で、市内で唯一石棺が見つかっている。

②長さ6.4m、幅2.85m、高さ1.95mの石室内と墳丘から、須恵器という硬い土器や土師器という素焼きの土器が多量に出土していて、日常的な器のほかに、儀式でしか使わない器が多く含まれている。

③古墳の上から円筒埴輪の列や埴輪棺（円筒埴輪を棺に転用したもの）が出土したほか、石室内からも60点以上の埴輪が出土している。石室内から多数の埴輪が出土した例は全国的にも非常に珍しい。

④石室内から甲冑や武器・馬具（※2）など、多量の金属製品が出土している。鉄製の馬具などの一部は、金銅装（鉄製の本体に銅の板が貼られ、金メッキが施されている）。

以上のことから、当時の静岡県西部で最も有力な首長の墓と考えられます。

甑塚古墳がある場所とその周囲は民有地です。見学はできません。

（※１）横から穴を掘って造る石室　（※２）馬につける器具

形象埴輪の復元修理

令和５年度は、金属製品の保存処理と図化、形象埴輪の復元修理をおこないました。作業は、文化財課職員がおこなったほか、高度な知識と経験・技術が必要な遺物の保存処理や図化は専門機関に委託しました。

特に、形象埴輪では、盾形の埴輪と複数の円筒埴輪として、それぞれ別に接合・復元されたものが、ひとつの個体であることがわかったため、解体して復元修理をおこないました。

この埴輪がどのような埴輪で、どのような学術的価値があるのか、現在、専門家の指導の元特定を急いでいます。

修理前の形象埴輪

形象埴輪の復元修理

修理前の埴輪は、別々の個体として石膏で接合・復元されていました。復元修理は最初に、この石膏を取り除きながら解体する作業からおこないました。（写真１）。

写真２　石膏を除去した埴輪の断片（一部）

写真３　接合・組み立て作業

復元が終わった埴輪は、現在実測図を作成しています。

今回復元した埴輪が、どのような埴輪でどのような学術的価値があるのか、その調査結果と実測図は文化財だより６月号で報告・掲載します。お楽しみに！

写真１　石膏の除去作業

解体した埴輪の断片（写真２）を樹脂に浸けて強化処理をおこなった後、組み立て作業に入ります。

接合にも樹脂を用い（写真３）、下から順に組み立てていきます。自立させることが困難になってくると、木の枠を使って組み立てていきます（写真４）。その後欠損部を補填（ほてん）してから彩色を施して完了です。修理には約５ヶ月かかりました。

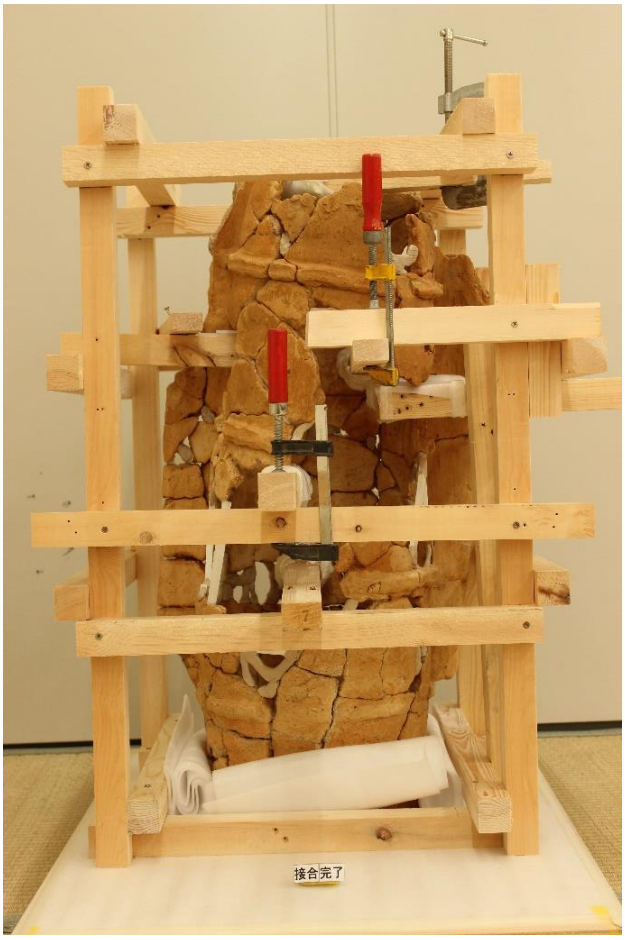


写真４　枠を使っての組み立て

（京都市・スタジオ三十三にて）

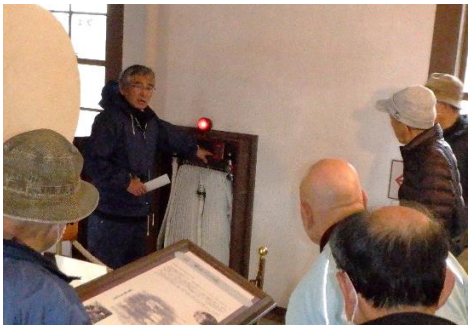
文化財防火デーにあわせ 消防訓練をおこないました！

文化財防火デーは、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県）金堂が、昭和 24 年 1 月 26 日に火災にあったことがきっかけで制定されました。

はしご車・放水銃からの放水

磐田市では毎年、文化財課、消防署、ボランティアの方々と共に消防訓練をおこなっています。

訓練当日はまず、旧見付学校内の消火栓の設置位置・使用方法、来館者用のヘルメットの位置確認をおこないました。


消火栓の確認

特に消火栓の使用方法については、扉をあけて中に入っている筒先とホースを実際に扱いながら確認したことで、緊急時における使用方法の理解がより深まりました。

その後、「旧見付学校周辺で火災が発生し、延焼の恐れがある」と想定し、火災を通報することから始まる一連の行動を訓練しました。

防火への正しい知識と設備を備え、今後も文化財の保護に取り組んでいきます。

特別史跡遠江国分寺跡 金堂整備工事見学会を開催しました！

現在、金堂の基壇復元工事を進めている遠江国分寺跡にて、金堂の歴史や構造、工事方法について解説する見学会を開催しました。

今回の見学会では特別に、来場者限定で、工事で使用するレプリカの塼（せん）（古代のレンガ）にメッセージを記入していただきました。塼はメッセージを書かれた面を下にして、金堂基壇の上面に設置していきます。

見学会の様子

塼にメッセージを記入している様子

令和６年度以降は、塔や回廊基壇などの整備もおこなっていく計画です。

市ホームページで、整備事業、工事の様子を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

整備事業　工事の様子

参加者募集

歴史見学会
「城之崎（きのさき）城」～徳川家康ゆかりの城を歩く～

有識者とともに、家康ゆかりのお城、城之崎城を歩いてみませんか。城の構造や歴史について楽しく学びます。

と　き：３月 20 日（水・祝）　９時 30 分から 11 時 30 分　※小雨決行　参加無料
ところ：城之崎城跡（磐田城山球場　磐田市見付 190）
講　師：加藤理文（磐田市文化財保護審議会副会長・日本城郭協会理事）
定　員：40 人（応募を上回る場合は抽選）
申　込：３月６日（水）まで　電子申請または往復はがきにて申込

・電子申請　右二次元コードから申込
・往復はがき　氏名・住所・電話番号を明記のうえ下記住所まで送付

問合せ：文化財課
〒438-0086　磐田市見付 3678-1
TEL0538-32-9699　FAX0538-32-9764

城之崎城跡（磐田城山球場）

職員リレーコラム

山車（だし）のはなし

鈴木　崇夫

私が住んでいる中泉地区では、秋の祭典で山車の巡行をおこないます。山車は、宮大工によって作られ、百年近くも使用されます。そのためには運行やメンテナンスについて様々なノウハウが必要です。

山車を組み立てる際、釘やボルトは使わず、部材をホゾ穴に差し込み、サラシで縛り締め上げて固定します。走っている山車を前から見ていると、山車全体がひし形に変形しながら左右に揺れます。こうすることで力を逃がし転倒を防ぐ構造になっています。

現在の四輪の山車は、大抵、舵（かじ）取り装置が付いています。舵取り装置がない時代は前輪を横に引きずって向きを変えていました。車体に相当無理がかかりそうですが、舵取り装置がついていないほうが車体は長持ちすると言われています。

屋根には屋根係がいて、電線や木の枝をよけたりします。踏切を渡るときはすごく揺れるので振り落とされそうになります。架線に触れて感電しないよう屋根に這いつくばり、できる限り架線と距離をとって走り抜けます。命がけです。

祭典の期間以外は、提灯や彫刻、幕を外し、サラシをほどいて車体のストレスをなくし、車体をジャッキで持ち上げて下に角材を入れ、車輪を浮かせて保管します。

一見華やかな山車引き回しは、裏方の地味な作業が支えています。

編集後記
年度末が近づいてきました。来年度の文化財だよりはどんな特集を組もうか…新しいシリーズも…悩ましい日々です。来年度も文化財だよりをよろしくお願いします。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB 版は市 HP から閲覧できます。磐田 文化財だより 検索